

「就職氷河期とひきこもりの関係」



SC Youth Support Center

NPO法人青少年自立援助センター

常務理事 河野久忠

NPO法人青少年自立援助センター事業概要

○厚生労働省事業

- ・あだち若者サポートステーション
- ・いたばし若者サポートステーション
- ・多摩若者サポートステーション
- ⇒八王子若者サポートステーション(サテライト)
- 荒川区委託事業
- ・あらかわわかもの就労サポートデスク

ネット支援事業

○知的障害者グループホーム(福生市)

- 「きんもくせい 第一・二」 男性専用
- 「きんもくせい 第三・四」 男性専用
- 「きんもくせい 第五」 女性専用
- 障害者・就業生活支援センターけるん(福生市)
(厚生労働省・東京都委託)
- 就労継続支援B型・就労移行支援事業(福生市)
(ジョブスペース游)

ひきこもり支援事業

当法人は、日本において、社会的不利益を被っている、あらゆる若年者の自立支援を行っています。40年以上の実績を持つ支援事業の特徴は、発見⇒誘導⇒参加⇒出口のトータルサポートです。ひとりひとりの特質に臨機応変に対応するためには、常に先駆的な取り組みが要求され、それを確実に実践していくことで、社会的責任を果たしていると言えるのです。

福祉的支援事業

生活保護世帯・定住外国人の子弟支援事業

- 生活保護世帯の若者向けのアウトリーチ(足立区)
- 海外にルーツのある子ども・若者たちの学習支援(福生市)
⇒YSCグローバルスクール
- あだちグローバルユースサポートプロジェクト(足立区)
- 板橋区生活困窮者学習支援事業(まなぶーす板橋)板橋区委託事業
- 福生市生活困窮者学習支援事業(まなぶーす福生)福生市委託事業
- 八王子市ひとり親家庭向け楽手支援事業 八王子市委託事業
- 八王子市若年無業者就労促進事業(就労訓練)八王子市委託事業
(ジョブリア八王子)

- 寮運営事業(福生市)
- 訪問支援事業(福生市)
- 就労支援事業(福生市)
- ひきこもりサポートネット(東京都委託事業)
- セーフティネットあだち(足立区委託事業)
- フリースペースわかぼ(足立区)
- 学びのセーフティネット事業
(東京都教育委員会委託事業)
- 若者社会参加応援事業(東京都登録事業)
- 訪問支援員養成事業(内閣府事業)
- 青梅市における若者の自立等支援事業
- 荒川区「若年無業者就業促進事業」
- 多摩市子ども若者育成支援事業

ひきこもり状況の推計値

【ひきこもりの定義】

様々な要因の結果として、社会的参加（義務教育を含む就学、非常勤職員を含む就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には6か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態（他者と交わらない形での外出をしてもよい）を指す現象概念。 {厚生労働省 「ひきこもりの評価・支援に関するガイドライン」より}

☆内閣府

○準ひきこもり **36.5万人**

（ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事するときだけ外出する）

○狭義のひきこもり状態にある者 **17.6万人**

（ふだんは家にいるが近所のコンビニなどには出かける、自室からは出るが、家からは出ない又は 自室からほとんど出ない {内閣府 平成28年9月「若者の生活に関する調査報告書」より}

⇒計 **54.1万人**

○高齢ひきこもりの調査結果（2019年）

40～64歳 **61.3万人** ひきこもり期間 7年以上が半数

ひきこもりのタイプ

ニート層
(無業状態)

精神・発達・
パーソナリ
ティー障害等

ひきこもり層



就職氷河期とひきこもり長期・高齢化

☆ひきこもりの入り口

- ・ 就活の不調
- ・ 離職
- ・ 大学中退
- ・ 大学院（就労の先延ばし）

☆対人面等で不器用なところがある。

☆ひきこもりになりうる条件

→支えてもらえる環境があることが必要

☆ひきこもりの長期化・高年齢化

→支えてあげなくては・支えてくれるだろうの親子の共依存関係が根底にある。

→当たり前前なのが、当たり前前に話せない親子関係が構築されてしまう。

A市の保護者セミナーでの状況

ひきこもり状況の年代

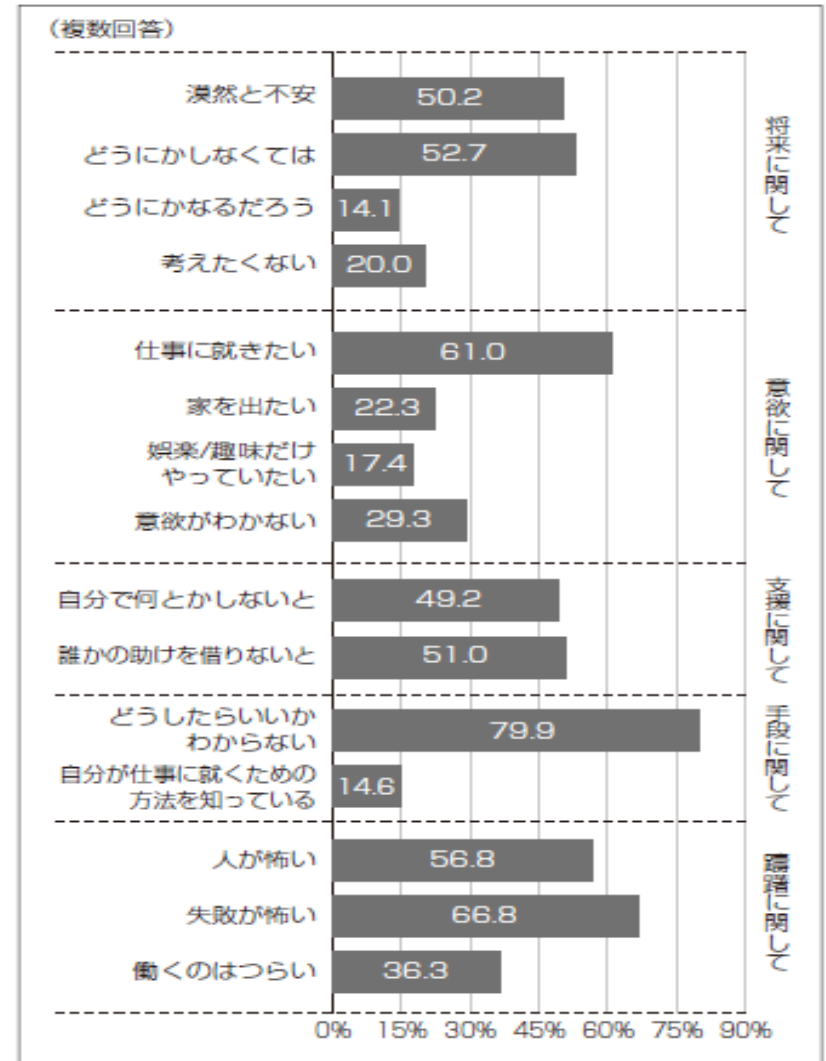
10代（15歳以上）	10%
20代	27%
30代	23%
40代以上	27%
不明	13%

支援状況

一度も支援を受けたことが無い	60%
過去に支援を受けたことがあるが今は受けていない	10%

⇒ 70%が見守り等の状況にある。

当事者の気持ち



出典：当事者の効果的な発見・誘導に関する調査研究

☆いまさら何ができるのか？

☆履歴書の空白はどう説明したらいいの？

☆こんな状況で社会は受け入れてくれない！

☆自分の状況は誰にも理解されない・・・

☆こんな状況になったのは、親の育て方が悪かったからだ！

長期・高齢化がもたらすこと（親亡き後・・・）

- ・ 犯罪の問題
- ・ 自殺の問題
- ・ 精神疾患等の発症
- ・ 生活保護等の社会的コストの増大
- ・ 他の兄弟への経済的・精神的負担

長期化した、ひきこもりに対する支援

見立ての機会

(保護者相談)

アウトリーチ

生活・就労支援

就職支援

職場定着支援

就労経験の有り無しでも支援の有りようは変わる

社会経験 ⇔ 社会性

→ 社会性が高ければ、サポステ等の就労支援等のプログラム参加で自立していける可能性が高い

社会的経験が少ない

→ 基礎的な対人面のトレーニング・社会的ルール等の獲得・体力づくり、就労支援、定着支援までの段階的支援が必要

自立の為に必要な支援

～ Y S C ひきこもり自立支援プログラム～

Basicの部分で本人の希望やペースに伴走した支援が可能

- ・メンタルヘルスや不安の解消
 - ・段階的な社会参加
 - ・意欲の醸成
 - ・小中学校の学び直し
 - ・高校認定試験の学習支援
- 等



Basic 基礎

- ・生活改善、他者との関わり
- ・チームビルディング



Social 社会性

- ・SST
- ・職場実習



Work 仕事

- ・就職活動
- ・個別支援

Follow Up 継続支援

事例

☆当事者 39歳

- ・一浪して大学を卒業→就職決まらず、学生時代のアルバイトを28歳まで継続。
単発のアルバイトを継続するも、35歳でひきこもり状態になる。

・相談開始

当事者の兄が心配をして相談に来所。

→2回目に両親も来所

・訪問支援開始

当事者と会える

「バイトなら今すぐできるが、この年齢で中途半端に行動してこの先どうなるものか？」とコメント

→履歴書の空白等を気にしている状況

→出口に繋がる手段を提示

自立・就労支援



☆ 個々の段階に合わせた支援が必要



☆ 通所型就労支援

☆ ハローワーク

☆ 職業訓練校

☆ 地域若者サポートステーション

☆ 宿泊型就労支援

☆ 医療・福祉

